

# 別府鉄道 探訪

昭和59年2月1日をもって、土山駅を貨物取扱駅から外すという国鉄の決定を受け、別府鉄道は運行の廃止を決めました。今回は、廃止決定から廃止されるまでの2カ月あまりの期間に起こった出来事についてお話しします。

別府鉄道が大阪陸運局に廃止申請を提出したのは昭和58年11月11日のことです。国鉄の合理化計画を受けての私鉄会社の営業廃止は全国でも初のことであり、多くの鉄道ファンが別れを惜しみました。

別府鉄道の廃止は、地域の方々はもちろん、全国の鉄道ファンにも影響を及ぼしました。正式な廃止届けを提出する約1カ月前の10月半ば、地元新聞社によって営業廃止をいち早く報道されて以降、別府鉄道には休日になるとカメラを持った鉄道ファンが押し寄せ、臨時列車を走らせなければ対応できないほどでした。

上の写真は廃止の1週間前にハフワの車内を写したのですが、昼間でも通勤列車並みの混雑だったようです。また、地元の小学校や子ども会から社会勉強にと団体で利用することも少なくなかったそうです。

名残は尽きることなく「さよならフィーバー」を巻き起こしながら、別府鉄道はその運行最終日を迎えます。



▲廃線を聞きつけて全国から集まった鉄道ファン

## 「さよならフィーバー」

地元新聞社が、当時、別府鉄道廃止に向けた加熱かりを見て表現した言葉。別府鉄道が迎えた最後の日曜日に「さよならフィーバー」は最高潮に達し、その乗客数は2千500人を記録しました。

\*特別展の開催にあたり、多くの方からご協力をいただきました。

(郷土資料館)



このコーナーに登場してくださる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画グループ

## てくてく合同サークル

本田 恵子さん 吉川 理恵さん

活動（結成）をはじめられたきっかけは？

子育て支援センターで「てくてく」の活動を卒業した複数のサークルが一緒に秋まつりを盛り上げようと合同サークルを結成しました。

グループのメンバー構成は？

子育て中の親が集まっています。子ども年齢は、0歳児〜小学生まで幅広い子育て仲間となっています。

活動の内容は？

今まで子育て支援センターのいろいろな行事に各サークルで参加していましたが、今回は初めて自主的に大きな行事をやってみようと、サークルが結集しました。みんなで秋まつりを企画しています。



▲親も楽しい。子どもも楽しい。



▲作業しながらの情報交換は大騒ぎ

グループのモットーは？

親も子どもみんなで楽しめることをモットーにしています。

ユニークなエピソードがあれば教えてください。

秋まつりの準備など、親が作業に熱中しすぎて知らない間に子どもが「脱走」していたことがあり、大変でした。

また、子どものエネルギーが余りすぎて、おもちゃや本が飛んできたこともありました。